

合併号
2020
12月
2021
1月
December
January

町内会だより

tamagawagakuen-chounaikai 町田市玉川学園 2-19-5
玉川学園町内会 月曜日～金曜日 10:00～16:00
※年末年始を除きます

https://tamagawagakuen-chonaikai.net
 Tel/Fax : 042-725-0438 t-chounaikai194@bz03.plala.or.jp

新年のご挨拶 明けましておめでとうございます。

2020年は新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年となっていました。町内会活動も免れることは出来ず、大部分の活動が制限されることになりました。こうした中でも9月以降には少しずつではありますが活動を再開することが出来てきました。

広報部では隔月ではありますが、新たな内容の「町内会だより」を発行しています。防犯防災部では家庭内での防災訓練として災害を想定しながらの防災アンケートを実施し、コミュニティー部では新たな「挨拶運動」をスタートするなど、コロナ禍での新たな活動に取り組み始めています。

2021年もコロナとの戦いは続くことになりそうです。このような中であっても、5月には新しい玉川学園コミュニティーセンターが完成し、9月には駅とセンターをつなぐデッキも完成します。利便性が向上し、町内会活動も含め様々なサークルが新たな活動をする拠点となることでしょう。

また、2022年には町内会が発足して60年を迎えます。2021年を「新しい時代の町内会活動をどのような形にして行くか」を考える重要な一年にして行かなければならないと考えています。

地域の皆様や役員の皆様と共に、ウィズコロナの時代として知恵を出し合いながら活動して行きたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2021年正月 玉川学園町内会 会長 服部知行

各地区で防災訓練が実施されました 地区自主防災隊

今年の地区防災訓練は町田市防災課の防災訓練ガイドライン（コロナ対策）に沿って実施されました。

- 【第一地区】 11月21日 玉園台児童遊園で実施
- 【第二地区】 11月29日 こども広場の防災倉庫前で実施
- 【第三地区】 11月 7日 三丁目児童公園で実施
- 【第五地区】 10月17日 なかよし公園防災倉庫前で実施
- 【第六地区】 11月22日 東玉川学園一丁目児童公園で実施

各地区で行われた防災訓練の詳細については町内会ホームページをご覧ください。

「園児たちの合同防災訓練」が行われました 防犯防災部

11月16日(月)、園児156名、大人58名が参加して、ころころ児童館・玉川中央幼稚園・玉川さくら保育園・ことりの森保育園・玉川学園町内会共催の合同防災訓練が行われました。

午前9:50に地震発生との想定で、通話訓練を終え、こども広場への避難訓練が行われ12分ほどで避難完了。各園に戻り、今回の目玉である各園での防災訓練が始まりました。



【玉川中央幼稚園の取り組み】 身近な危険を知りましょう！！
 倒れたり落ちてきたりする物はどれかな？と先生の声掛けに年長さんが「ガラス窓」を指し「ガラス」と大きな声で答えていました。危険なものから体を守るにはどうするのか？防災頭巾をかぶる！他には？頭の上に座布団を載せる！カバンを載せる！本も使える！部屋の真ん中に行く！活発な答えが返ってきました。

【玉川さくら保育園の取り組み】 地震に備えて知っておこう！！
 身を守る場所はどこかな？災害の備えは？落ちたり動いたりするものは？先生の質問に園児たちは探し回り、見つけるとシールを貼り、皆で確認し合っていました。扉の中を真剣にのぞきこみ「ここに水がたくさんあるんだ」と言って納得した様子。先生の話をしっかり聞いて訓練をしています。年長さんによる「さくら保育園防災探検隊」は大活躍です。

【ことりの森保育園の取り組み】 合言葉「おはしも」！
 園に戻った園児達が中庭に集まると先生はカセットコンロに火をつけお湯を沸かし始めます。その間、皆に絵を見せ避難の時の大事な合言葉「おはしも」を教えます。「お」押さない「は」走らない「し」喋らない「も」お部屋に戻らない。非常食のお粥は初トライ。「おかわり～」の声にひと安心。2歳の記憶に残ったこの日「先生、おはしも！」。

白いタオル出し訓練の案内 第六地区

東玉川学園1丁目、2丁目にお住いの皆様へ
 2021年3月11日(木)に安否確認訓練(白いタオル出し訓練)を予定しています。
 詳細は、2021年2月の回覧などでお知らせします。

「我が家は無事」を知らせる白いタオルを門口に！！

悲願の郵便ポストが設置される 第六地区

第六地区で郵便ポストが設置されました。場所は、玉ちゃんバス東急台入口バス停に隣接の市道端です。

当地区には以前、2か所に設置されていましたが、いずれも私有地だったため、地権者のご都合で順次撤去された経緯がありました。当地区は、周辺を含めると700～800世帯を擁しており、最近になってポストの無い不便さを指摘する声が相次いで挙がりました。このため、第六地区として日本郵便株式会社に対して再三に亘って申し入れた結果、復活設置が実現したものです。近年、電子メールやFAXの普及で郵便需要は大幅に低下しており、郵便事業もそれに応じて経営合理化・効率化が必要との釈明が先方よりありました。しかし、この復活設置が実現したことから、パソコン・スマホよりも封書・ハガキに慣れ親しんだご年配者などから感謝の声が寄せられています。

資源回収の報告 環境部

10月重量は 90.4 トンでした
 11月重量は 79.8 トンでした

資源物は 収集当日の朝8時半までに出してください

※古紙・ダンボールは必ず紙ひもで括ってください
 ※古布は一度に出さず分散して出してください

資源物のお問い合わせは 資源物の不正な抜き取りを目撃した時は
 町内会事務所または 大興資源へ 日時、場所、回収車の車両番号などを町内会まで
 ☎045-929-4813 ☎725-0438

新入学児童 「入学祝い金」について 一総務部一

今年4月に小学校に入学される同居のお子様のお祝い金(3千円分の図書券)をお渡しします。入学先は公立・私立は問いません。申込書に必要事項をご記入の上、2月19日(金)までに各地区の班長、支部長、または町内会事務所(町内会ポスト)へお届けください。入学祝い金は町内会より直接、各家庭に郵送いたします。(3月中旬発送予定)

お祝い金のお申込みはFAXでは受け付けておりません

総 2021年度 新入学児童お祝い金申請書 申込締切日：2月19日(金)

会員お名前	新入学児童お名前	支部名	ご住所	お電話番号

町内会 こども記者クラブ



※「町内会こども記者クラブ」とはコラム名です

けやきプロジェクト一次代の子どもたちへ年輪を残そう—
1930年から旧玉川学園駐在所前に植栽されたシンボルツリーとして成長した樺が2017年に枯死のため伐採されました。その一部の切株を地域で役立てるために私たちは年輪を観察しながら切株を磨きました。



- 2020年**
- 7月13日(月) 保管をお願いしていた会員の方の倉庫を下見
 - 8月2日(日) 彫刻家の方が ボランティアでカナ掛け
 - 10月26日(日) ケヤキやすり掛け (サンドペーパー) 小学生参加
 - 10月31日(土) 補修 (軽く面取り) と下見
 - 11月1日(日) ケヤキ仕上げ フックス掛け 蜜蝋クリームを塗る 裏にフェルトを貼る 小学生参加
 - 11月7日(土) 枕木を入れる
 - 11月9日(月) 市役所の方が けやき下見 新聞紙で型をとり、大きさを測る

- <小学生向けアクティビティ>
- *ヒノキにやすりをかけてキーホルダーを作ろう
 - *ハッピータウンクイズ
 - *ストリングでオシャレなひもづくり

玉川学園町内会 環境部協力 コミュニティ部協賛 幹事・会員有志



わたしは、ケヤキ磨きに参加して、最初にやった紙やすりの作業が心に残りました。紙やすりには、たくさんの種類があることがわかりました。40番や60番など、数が小さい方が荒くて、800番や、1200番など、数が、大きくなるにつれて、細かくなっています。わたしは、80番でケヤキを磨きました。磨く前と後を比べると、磨く前は、少しザラザラしていたけれど、磨いた後は、スベスベしていました。磨くときは、硯で墨をする時のように丸く円をかくようにやさしく、丁寧に磨きました。作業1日目が無事に終わって、ほっとしたし、楽しかったです。

●ペンネーム：かんちゃん (5年生)

全員が集合場所に集まった。まず、木の種類を見せてもらった。いろんな種類があり、また、その木ごとに、手触りが違って独特な木のおいのももあった。その次にエプロンを着用してから、ケヤキ削りに入った。最初、タテ、ヨコ、タテ、ヨコと紙やすり削っていたのを見ていた男の人が、「回すように削るといいよ。」と、教えてくれた。自分はもちろん、ほかの女の子たちもやっていて、しばらくすると削っていた面がつるつるになった。自分たちがつくった、このケヤキ椅子が、どこかで誰かが心地よく座ってくれると思うと、少しわくわくする気持ちになる。

●ペンネーム：そら (4年生)

わたしは、ケヤキ磨きに参加して、一番印象に残ったことは紙やすりで磨いた後に蜜蝋(みつろう)をぬることです。蜜蝋とは、ミツバチの巣を構成している蠟(ろう)を精製したものです。布に蜜蝋をつけて、丸く円をかくようにぬりました。ぬる前とぬった後と比べてみると、ぬる前は紙やすりでけずった粉が残っていてサラサラしていたけどぬったら、つるつるで色が赤っぽくなって光沢がでていました。最後の作業が終わりほっとしました。最後に記念撮影をして終わったんだなと思いました。それと、蜜蝋は食べられると聞いたので味見をしたくなりました。

●ペンネーム：すずめ (5年生)

わたしが一番頑張ったことは木のうらにフェルトをはる、さぎょうです。なぜかという、フェルトの形が丸で、かわいたポンドをぬるのが大変だからです。桜の切りかぶは、学校でよく見ますが、ケヤキの切りかぶをはじめて見ましたが桜の木よりも大きくて、ねりんがはっきりと見ることができて、数えることもできました。

●ペンネーム：アジフライ (3年生)

はじめに町内会の人から、木の種類や紙やすりについて教えてもらいました。紙やすりの番号が大きい方が目が細かいことがわかりました。ケヤキの年輪を数えてみたら、80才をこえていました。

紙やすりの種類を替えたり、大人と交替しながら、やすりかけをしました。休けい時間には、紙やすりをかけて、ヒノキのキーホルダーも作りました。ヒノキはいい香りがしました。紙やすりかけると手が少しつかれましたが、すべすべになっていくのが楽しかったです。出来上がった腰かけを見るのが楽しみです。

●ペンネーム：Katze (5年生)

フラッグアートに繋ぐ夢

コミュニティ部



2020年師走、駅前を飾ったフラッグは鳥獣戯画。

フラッグアートは毎年玉川大学生の指導で玉川学園地区の小・中学校の児童・生徒が制作し、商店街の方々と玉川学園町内会が路上に展示する10年以上続くイベントで、多世代交流のきっかけになっています。しかし、2020年継続の危機に…、「コロナの影響で、フラッグ制作は各学校共、早い段階で中止を決定。ところが南大谷中学校が美術授業でテーマの鳥獣戯画をフラッグにしたことで実施が叶いました。恩田川遊歩道の展示は例年以上の反響で、駅前舗道展示では商店会関係者から励ましの声を頂きました。」とフラッグアート実行委員会。信頼、共感、共創の年月が未来を繋げたのです。

第5回「葉っぱを集めて焼き芋会」

第二地区 / 共催：さくらと緑のプロジェクト

12月6日、晴れ。「葉っぱを集めて焼き芋会」が行われました。コロナ禍「今年はやらないの」という子供の声と「どうしたらできるか考える」という後押しで実施になりました。

焚火は中央幼稚園の「小鳥の森」、葉っぱのプール遊びやお芋の受取りは、広い「こども広場」。幼児と児童の時間分けと対策がとられました。控えめの宣伝でしたが、子供98人を含め154人の参加があり、スタッフを入れると177人。多くの子供の声が出て、賑やかなイベントになりました。幼児の外遊び応援チームの「クローバー」の皆さんがつくったケンチン汁が、「さくらと緑のプロジェクト」や町内会役員の皆さんにもふるまわれてスタッフ交流もできました。これまで気遣わなかった落葉焚きの煙は、炉を減らし炭や薪を多めに加えて火力を上げる工夫をすることでご近所迷惑にも配慮しました。地区協議会支援事業として、道の落葉を掃除してくださる方に翌年腐葉土としてお返しする「葉っぱバンク」が始まりました。その落葉を焚火にも使いました。香りのよいサクラの落葉と焚火、焚火とお芋はともに相性の良い生活文化といえます。ともすれば忘れられてしまう光景ですがこれからも続けられたらと思います。



たま坂 こどの葉

ダブルベース、弦バス、ウッドベース、アップライトベース、低音大提琴・・・

これらすべて、「コントラバス」という名称の楽器と同じものです。

お国、ジャンル、シチュエーションによって名前が異なる訳ですが、大別すると、ジャズ、ポップス、吹奏楽、

クラシックなどでその名称が変わってきます。

そもそも音域を表した言葉が、いつの日か楽器そのものの名前に。「バスのバス」という意味のこの楽器、例えば、チェロ(ヴァイオリン属の縦型に奏する楽器)はベース(バス)の音域を弾く楽器なのですが、同じ楽譜を見ているのに、コントラバスはチェロの1オクターブ下の音になってしまいます。「バスのバス」だからです。

楽器が大きいので、オーケストラでは舞台の上手か下手、客席から舞台に向かって右手か左手のどちらか端っこに生息しています。それは、ヴァイオリンやヴィオラそしてチェロの弦楽器奏者の視界を妨げない為です。なぜならば、身の丈2メートルの楽器ゆえ、舞台の中央に位置していたら、コントラバスの「林」で指揮者を覆ってしまいかねないからです。オーケストラで弾くときは、パーカOUNTERのツールの様な椅子、通称「バス椅子」に座って奏します。

肩に乗せて顎で挟むヴァイオリンとヴィオラ、そして膝で挟むようにして縦に構えるチェロ。右手に持つ「弓」は木と馬の毛で構成されていますが、木の部分を上から添える様に持ちます。しかし、コントラバスには2通りの弓の持ち方があります。他の弦楽器と同じ様に上から添える持ち方の弓と、下から添える持ち方の弓があり、前者をフランス式、後者をドイツ式の弓(フランチボウ、ジャーマンボウ)と言いますが、前者の弓と持ち方は、いわゆるヴァイオリン属のもの、後者の弓と持ち方はヴィオール属のものと言えます。

ヴィオール属、馴染みのない言葉かも知れませんが、肩に乗せて弾くヴィオラ・ダ・ブラッチョや小型のチェロの様な膝で挟むタイプのヴィオラ・ダ・ガンパといった弦楽器属が中世にもてはやされていました。フランス革命以降は、聴衆が貴族から大衆に代わる事で、演奏会場も広い空間が必要になり、勢い音の大きいヴァイオリン属が隆盛し、脆弱な音量のヴィオール属は影を潜めました。コントラバスは、どちらの弦楽器の流れにも属するものであり、楽器の裏板が平板(フラットバック)になっているコントラバスが見受けられるのも、ヴィオール属の名残と言えます。因みに小生が扱う楽器の裏板は平板(表面は湾曲しています)、弓の持ち方はドイツ式。明治時代に音楽取調掛(のちの東京芸術大学)が開設された際にヨーロッパから招いて教授なされた方が、東ヨーロッパ系の方だったのでしょう。以降、日本ではドイツ式の弓が大半をしめる事になった次第です。

